

## 南仏事件情報（7月分）

### （1）テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

#### ● テロ企図の若者を逮捕（13日、ブッシュ・デュ・ローヌ（BDR）県）

13日、仏内務省は、テロを企図していたとして若者3人を逮捕した。3人は17・19・23歳で、うち1人はマルセイユ在住、1人は元軍人。犯人は、今年12月31日から来年1月7日のシャルリ・エブド事件記念日に、ジハードの名の下にピレネー・オリエンタル県にある仏軍基地を襲撃し、軍幹部を斬首しようとしていたとされる。情報によると、犯人はISILとの関係を主張、シリアに渡航してジハードに参加しようとしていた。

#### ● 石油コンビナート爆破（14日、BDR県）

14日午前3時過ぎ、マルセイユ近郊のベール・レタン市で、リヨンデルバセル（Lyondellbasell）社の石油コンビナートで爆発が起きた。同地域はマルセイユ工業地帯の中心で多くの石油コンビナートが密集しており、1,000ヘクタールの広さで周囲は金網に囲まれ、防犯カメラが設置されている。

タンクは、ほぼ同時に2回爆発した。爆発に伴い大火災が発生し、上空には大きな黒い煙が立ちこめた。120人の消防隊により、8時間後に鎮火した。

現場検証によると、爆発したタンク付近の金網に複数の穴が開いており、別のタンクからは不発の爆破装置が発見された。検事は「この爆破装置は素人的なものであり、プロの仕事ではない。」とコメントした。

#### ● 仏革命記念日祝賀の裏の暴力沙汰（14日、フランス全土）

7月14日、祝祭で賑わう中、全国各地で暴力沙汰が繰り広げられた。

パリでは、暴力行為やもめ事のため100人が拘留された。パリ北部のセーヌサンドニ県では、一晩の暴力行為に関して106人が取調べを受けた。また、警察車両に火が放たれ、警察官が100人以上の群衆に取り囲まれた。イブリーヌ県では、一晩で50人以上が取調べを受け、そのうち30人以上が暴力行為によるものだった。警察や消防はときにガス銃を使用して鎮静化を図ったが、それでも3人が負傷した。バルドゥマルヌ県では、30台以上の車両が燃やされ、52人が警察の取調べを受けた。

BDR県では、車両火災30件（昨年31）、コンテナ火災44件（昨年24）、17人が警察の取調べを受けて全員が拘束された（昨年6）。

(2) 殺人（邦人被害なし）

- 夜間の銃撃で1名死亡、1名重傷（12日、アルプ・マリタイム県）  
12日22時30分頃、ニース市ムーラン区の人通りの多いエリアで、25歳の男性が銃撃を受けて即死した。女性も同様に銃弾で怪我をしたが、意識はある。死亡した男性は、復讐のターゲットになったものと考えられる。麻薬密売により抗争の絶えないこの地区は、重点警戒エリアに指定されており、この数ヶ月は平穏だった。
- 男性が銃撃を受けて死亡（15日、ヴァール県）  
15日午後、トゥーロン市で、27歳男性が、警察官との銃撃戦の末、銃撃を受けて死亡した。男は、自分の父の車と会社に向かって発砲したことから、同日朝から警察による捜索を受けていた。男はテコンドーのチャンピオンで、非常に危険だと目されていた。
- アリアン区での暴力が新局面に（18日等、アルプ・マリタイム県）  
18日21時頃、ニース市東部アリアン区において、21歳の男性がスクーターに乗った2人組の男から銃で撃たれて死亡した。その1週間前の12日夜には、ムーラン区で、23歳男性が銃弾に倒れて死亡した。  
また、19日15時頃、ジェネラル・サラミト通りでは3軒の商店が複数の銃撃を受け、ショーウィンドウが粉々に砕け散った。幸い死傷者は出なかった。7日には男性が足を撃たれ重傷を負った傷害事件や、男性が腹部をナイフで刺され死亡した殺人事件も発生している。  
この数週間でこれらの地区の緊張は高まっている。

(3) 傷害（邦人被害なし）

- 男性が12歳の少年から刺される（10日、BDR県）  
10日19時頃、マルセイユ市の地下鉄内で、地下鉄の窓ガラスを破壊して自分の名前を落書きしようとしていた3人の少年を、57歳男性が叱ったところ、少年達はこれに反発して男性を侮辱した。少年がナイフを取り出したことから身に危険を感じた男性が、カステランヌ駅で降車して距離を置こうとしたが、胸と腹部を切りつけられた。少年らはさらに転倒した男性の首を踏みつけた。男性は救急病院に搬送された。警察の捜査により、少年達は身柄を拘束された。少年達は11・12・15歳で、不良と

して警察によく知られていた。

- プロヴァンス空港駐車場での凶行（28日、BDR県）

28日20時前、マリニャヌ市所在のプロヴァンス空港駐車場の入り口に駐車した車の中で、後部座席に座っていた39歳の男が運転席に座っていた叔父を果物ナイフで喉や腹を複数回突き刺した。すべては助手席に座っていた叔母の目の前で行われた。被害者は病院へ運ばれたが、犯人は抵抗することなく警察に逮捕された。犯人の供述は曖昧で意味不明なため、動機は明らかになっていない。

(4) その他特異事件等（邦人被害なし）

- レストランが襲われ、客も身ぐるみを剥がされる（8日、BDR県）

8日深夜、マルセイユ市9区のカランク・ソルミューのレストランに、ショットガンとスタンガン等で武装した3人組の覆面強盗が押し入り、金庫の中の1,200ユーロを奪い、さらに客10数人から腕時計や携帯電話、ルイ・ヴィトンの鞆等を奪った。犯人は大型バイク1台に乗って逃走した。

- 偽警察官による検問（11日、PACA州）

高速道路のパーキングエリアでの、偽警察官や偽憲兵隊による強盗事件が多発している。これらの事件は、午前2～6時頃によく発生しており、多くは外国人が狙われている。偽警察官は、麻薬や偽造書類の捜索という名目で車を荒らし、通報を遅らせるため携帯電話や車の鍵を奪って逃走する。PACA州当局は、「警察や憲兵隊は見て明らかなパトカーで巡回しており、通報などが無い限り高速道路上では職務質問をしない。」と注意を呼びかけた。

- 警察官が火炎瓶で襲撃される（15日、BDR県）

15日夜、マルセイユ市3区警察署前で警戒していた警察官2名に対し、火炎瓶2本が投げつけられた。幸い火炎瓶は着弾前に燃え上がったため死傷者は出なかった。すでに数週間前から一部の付近住民と3区警察署との対立は緊張感を増しており、1ヶ月前には警察署玄関に硫酸瓶が投げ込まれた。

- ラ・シオタ港で不審死（22日、BDR県）

22日17時30分頃、ラ・シオタ市の港で男性の水死体が発見された。いずれも市役所職員である36歳と49歳の男性2名による口論があったと思われ、その後36歳男性が港に沈んでいるのが発見された。49歳男性は船の間に隠れていたが、数時間後地上に上がってきたところを警察から身柄確保された。死亡した男性の体に傷はなかった。警察が事情を解明中。

● 8歳の少年が誘拐犯から避難（24日、BDR県）

24日23時30分頃、ヴィトロール市のキャンプ場で実施されていたカラオケ大会の会場で、キャンプ客ではない男が入ってきて8歳の少年に対して一緒についてくるように話しかけた。男は少年の腕を掴もうとしたが少年はこれを振り切って両親の元へ避難した。男は逃走したが、父親からの通報を受けた警察がこれを捜査し、キャンプ客のビデオ映像から犯人を特定した。犯人は周辺に住む48歳の男で、よくキャンプ場に入出入りしていた模様。警察は、男を未成年者略取未遂の容疑で送検した。

● 大麻5.64トンを押収（28日、BDR県）

28日、マルセイユ市14区において、警察は19歳と24歳の男達を職務質問し、同人らの車から150kgの大麻を発見した。また、この関連捜査で、ヴィトロール市某所でトラックに隠されていた5.64トンの大麻樹脂を発見・押収し、3人目の男を逮捕した。この販売価格は1,500万ユーロになる。この2011年以来最大の押収量となった逮捕劇は、密売人らに対する長期的な継続捜査と、モロッコ及びスペイン当局との連携によるものであった。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。